

3 品種

1 品種構成（品種構成の変化）

- (1) コシヒカリの作付シェアは緩やかに拡大
- (2) 依然として、ヤマホウシ、日本晴のシェアが高い
- (3) 近年、ヒノヒカリの作付けは大幅に拡大
- (4) 醸造用の掛米として需要のある中生新千本は横這い状態
- (5) 平成8年にヒノヒカリ、平成9年に晴るる、平成10年にひとめぼれを奨励品種に採用
- (6) 平成9年にとくひかり、平成10年に晴々、せとむすめを奨励品種から廃止

表15 品種別作付面積の推移 (単位：ha、%)

	H6		H7		H8		H9		H10	
	面積	比率	面積	比率	面積	比率	面積	比率	面積	比率
コシヒカリ	5,278	15	5,450	16	5,751	19	6,360	21	6,189	23
とくひかり	149	1	149	1	107		29			
晴るる									677	3
ひとめぼれ							334	1	494	2
ヤマホウシ	8,629	24	8,159	25	8,157	27	8,319	28	7,275	27
ヤマヒカリ	8,639	24	7,987	24	6,139	20	4,812	16	2,443	9
日本晴	4,874	14	4,684	14	4,598	15	4,441	15	4,113	15
晴々	1,186	3	1,177	4	989	3	1,063	4	411	2
せとむすめ	3,471	10	2,602	8	1,151	4	580	2	119	
中生新千本	814	2	961	3	825	3	801	3	792	3
ヒノヒカリ					749	3	1,283	4	2,606	10
その他	2,460	7	2,031	5	1,934	6	1,578	6	1,481	6
合計	35,500	100	33,200	100	30,400	100	29,600	100	26,600	100

※ 売れる品種への転換の必要性

① ヤマホウシ、日本晴の自主流通米の価格低下

※平成10年産自主流通米価格（60kg当たり、平成11年6月25日現在）

	自主流通米価格	政府米価格（H11）
全国全銘柄平均	17,645円	15,528
山口コシヒカリ	17,334円	15,950
山口ヤマホウシ	15,808円	15,550
山口日本晴	15,301円	15,200

② 政府米から自主流通米へのシフト

※自主流通米比率（山口県）

・平成6年産：54% →平成10年産：89%

2 品種誘導目標

良食味品種（コシヒカリ、晴るる、ひとめぼれ、ヒノヒカリ）比率 75%
（平成12年度目標）

表16 品種別誘導目標面積（県、経済連）

（単位：ha、％）

山口県全域							
	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	6,189	23	6,500	24	6,500	24	105
晴るる	677	3	2,000	7	4,000	15	591
ひとめぼれ	494	2	1,500	6	2,800	10	567
ヒノヒカリ	2,606	10	4,000	15	7,000	26	269
ヤマホウシ	7,275	27	5,000	19	2,500	9	34
ヤマヒカリ	2,443	9	1,500	6	0	0	0
日本晴	4,113	15	4,500	17	2,500	9	61
中生新千本	792	3	900	3	900	3	114
その他	2,011	8	1,100	4	800	3	40
合計	26,600	100	27,000	100	27,000		102
良食味品種	9,966	37	14,000	52	20,300	75	204
その他品種	16,634	63	13,000	48	6,700	25	40

注) 比率はラウンドしているのので、合計とは一致しない場合がある。

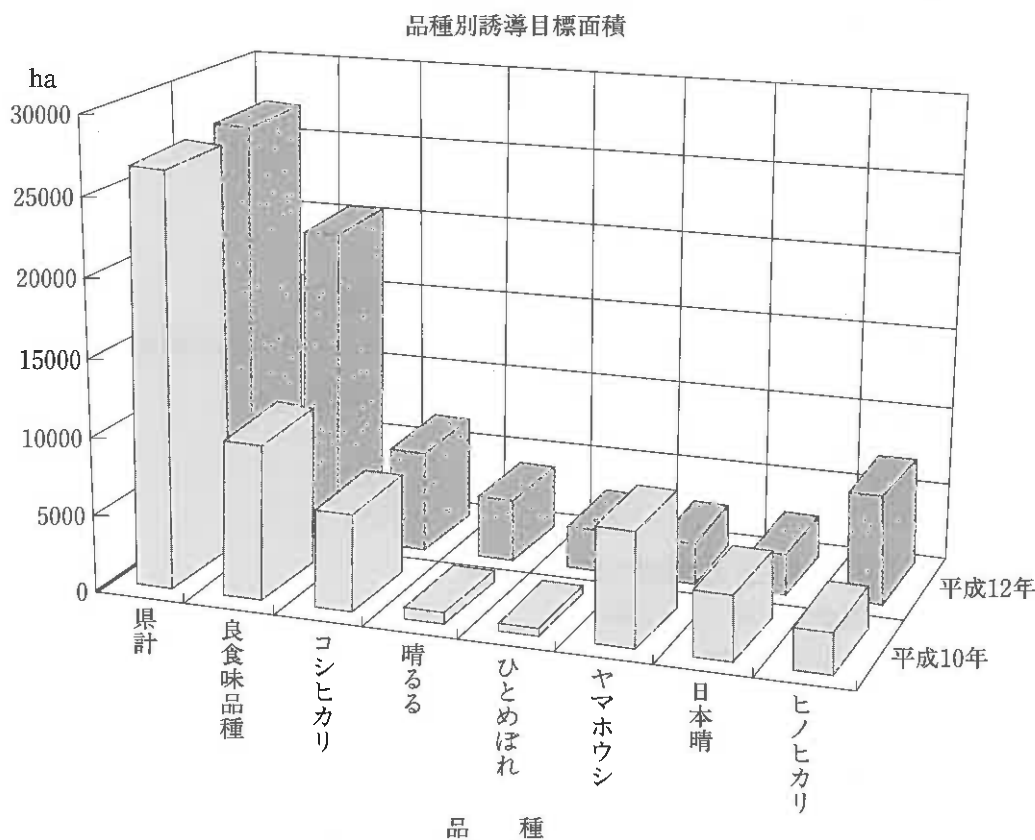


表16-1 品種別誘導目標面積（農協別）

1. 山口東農協		(単位：ha、%)					
	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	47	6	78	10	100	12	213
晴るる	2	—	25	3	170	21	8,500
ひとめぼれ	2	—	22	3	150	19	7,500
ヒノヒカリ	42	5	92	12	160	20	381
ヤマホウシ	454	57	424	53	200	25	44
ヤマヒカリ	163	21	96	12	0	—	—
日本晴	26	3	20	3	0	—	—
中生新千本	0	—	0	—	0	—	—
その他	57	7	36	5	24	3	42
合計	793	100	793	100	804	100	101
良食味品種	93	12	217	27	580	72	624
その他品種	700	88	576	73	224	28	32

注) 比率はラウンドしているので、合計とは一致しない場合がある。

2. 岩国市農協		(単位：ha、%)					
	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	1	2	2	4	3	6	300
晴るる	0	—	0	—	0	—	—
ひとめぼれ	0	—	0	—	0	—	—
ヒノヒカリ	2	4	10	20	15	30	750
ヤマホウシ	13	26	15	30	15	30	115
ヤマヒカリ	9	18	3	6	0	—	0
日本晴	13	26	15	30	15	30	115
中生新千本	0	—	0	—	0	—	—
その他	12	24	5	10	2	4	17
合計	50	100	50	100	50	100	100
良食味品種	3	6	12	24	18	36	600
その他品種	47	94	38	76	32	64	68

注) 比率はラウンドしているので、合計とは一致しない場合がある。

3. 通津農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	1	4	2	10	3	14	300
晴るる	0	—	0	—	0	—	—
ひとめぼれ	0	—	0	—	0	—	—
ヒノヒカリ	0	—	3	14	5	24	—
ヤマホウシ	8	35	6	29	5	24	63
ヤマヒカリ	3	13	2	10	0	—	0
日本晴	7	30	8	38	8	38	114
中生新千本	0	—	0	—	0	—	—
その他	4	17	0	—	0	—	0
合計	23	100	21	100	21	100	91
良食味品種	1	4	5	24	8	38	800
その他品種	22	96	16	76	13	62	59

注) 比率はラウンドしているため、合計とは一致しない場合がある。

4. 玖北農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	16	16	20	20	25	26	156
晴るる	0	—	4	4	20	20	—
ひとめぼれ	0	—	1	1	6	6	—
ヒノヒカリ	0	—	0	—	0	—	—
ヤマホウシ	62	63	67	68	45	46	73
ヤマヒカリ	19	19	2	2	0	—	0
日本晴	0	—	0	—	0	—	—
中生新千本	0	—	0	—	0	—	—
その他	2	2	4	4	2	2	100
合計	99	100	98	100	98	100	99
良食味品種	16	16	25	26	51	52	319
その他品種	83	84	73	74	47	48	57

注) 比率はラウンドしているため、合計とは一致しない場合がある。

5. 由宇農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	12	14	12	14	14	16	117
晴るる	0	—	0	—	0	—	—
ひとめぼれ	0	—	0	—	0	—	—
ヒノヒカリ	0	—	9	11	16	19	—
ヤマハウシ	29	34	26	31	20	24	69
ヤマヒカリ	0	—	0	—	0	—	—
日本晴	40	47	38	45	35	41	88
中生新千本	0	—	0	—	0	—	—
その他	4	5	0	—	0	—	0
合計	85	100	85	100	85	100	100
良食味品種	12	14	21	25	30	35	250
その他品種	73	86	64	75	55	65	75

注) 比率はラウンドしているのので、合計とは一致しない場合がある。

6. 山口大島農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	23	20	24	21	24	22	104
晴るる	0	—	0	—	0	—	—
ひとめぼれ	0	—	0	—	6	5	—
ヒノヒカリ	25	22	28	24	36	33	144
ヤマハウシ	40	34	39	34	25	23	63
ヤマヒカリ	4	3	4	—	0	—	0
日本晴	19	16	18	16	18	16	95
中生新千本	0	—	0	—	0	—	—
その他	5	4	2	—	1	1	20
合計	116	100	115	100	110	100	95
良食味品種	48	41	52	45	66	60	138
その他品種	68	59	63	55	44	40	65

注) 比率はラウンドしているのので、合計とは一致しない場合がある。

7. 南すおう農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	247	14	272	15	299	17	121
晴るる	1	0	12	1	29	2	2,900
ひとめぼれ	24	1	26	1	31	2	129
ヒノヒカリ	376	21	502	28	622	35	165
ヤマホウシ	690	39	725	41	658	37	95
ヤマヒカリ	101	6	50	3	25	1	25
日本晴	0	—	0	—	0	—	—
中生新千本	0	—	0	—	0	—	—
その他	335	19	180	10	104	6	31
合計	1,774	100	1,767	100	1,768	100	100
良食味品種	648	37	812	46	981	55	151
その他品種	1,126	63	955	54	787	45	70

注) 比率はラウンドしているので、合計とは一致しない場合がある。

8. 周南農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	222	16	354	25	412	26	186
晴るる	35	3	117	8	220	14	629
ひとめぼれ	29	2	80	6	180	11	621
ヒノヒカリ	117	8	315	23	570	36	487
ヤマホウシ	442	32	258	19	110	7	25
ヤマヒカリ	227	16	74	5	5	—	2
日本晴	167	12	90	7	55	3	33
中生新千本	0	—	0	—	0	—	—
その他	154	11	105	8	32	2	21
合計	1,393	100	1,393	100	1,584	100	114
良食味品種	403	29	866	62	1,382	87	343
その他品種	990	71	527	38	202	13	20

注) 比率はラウンドしているので、合計とは一致しない場合がある。

9. 防府とくち農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	155	8	160	9	300	16	194
晴るる	27	1	78	4	250	13	926
ひとめぼれ	20	1	51	3	250	13	1,250
ヒノヒカリ	108	6	179	10	400	21	370
ヤマホウシ	352	19	289	16	0	—	0
ヤマヒカリ	249	13	168	9	0	—	0
日本晴	732	39	684	37	300	16	410
中生新千本	114	6	82	4	250	13	219
その他	115	6	140	8	163	9	142
合計	1,872	100	1,831	100	1,913	100	102
良食味品種	310	17	468	26	1,200	63	387
その他品種	1,562	83	1,363	74	713	37	46

注) 比率はラウンドしているので、合計とは一致しない場合がある。

10. 山口中央農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	1,437	34	1,487	36	1,441	34	100
晴るる	99	2	202	5	303	7	306
ひとめぼれ	13	0	94	2	154	4	1,185
ヒノヒカリ	583	14	794	19	981	23	168
ヤマホウシ	338	8	228	5	92	2	27
ヤマヒカリ	255	6	98	2	24	1	9
日本晴	853	20	722	17	531	13	62
中生新千本	481	11	436	10	572	14	119
その他	127	3	125	3	88	2	69
合計	4,186	100	4,186	100	4,186	100	100
良食味品種	2,132	51	2,577	62	2,879	68	135
その他品種	2,054	49	1,609	38	1,307	32	64

注) 比率はラウンドしているので、合計とは一致しない場合がある。

11. 小郡町農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	4	3	4	3	4	3	100
晴るる	0	—	0	—	0	—	—
ひとめぼれ	0	—	0	—	0	—	—
ヒノヒカリ	0	—	0	—	15	12	—
ヤマホウシ	33	24	33	24	33	26	100
ヤマヒカリ	4	3	4	3	0	—	0
日本晴	82	59	82	59	62	48	76
中生新千本	11	8	11	8	10	8	91
その他	5	4	5	4	5	4	100
合計	139	100	139	100	129	100	93
良食味品種	4	3	4	3	19	15	475
その他品種	135	97	135	97	110	86	81

注) 比率はラウンドしているので、合計とは一致しない場合がある。

12. 山口宇部農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	135	6	200	9	200	8	148
晴るる	13	1	100	4	200	8	1,538
ひとめぼれ	12	1	30	1	180	8	1,500
ヒノヒカリ	337	15	500	21	800	33	237
ヤマホウシ	896	39	750	32	500	21	56
ヤマヒカリ	63	3	0	—	0	—	0
日本晴	780	34	700	30	500	21	64
中生新千本	21	1	20	1	20	1	95
その他	51	2	50	2	0	—	0
合計	2,308	100	2,350	100	2,400	100	104
良食味品種	497	22	830	35	1,380	58	278
その他品種	1,811	78	1,520	65	1,020	43	56

注) 比率はラウンドしているので、合計とは一致しない場合がある。

13. 山口美祢農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	510	26	600	30	844	43	165
晴るる	116	6	466	23	550	28	474
ひとめぼれ	19	1	27	1	0	—	0
ヒノヒカリ	11	1	50	3	200	10	1,818
ヤマホウシ	1,044	52	524	26	0	—	0
ヤマヒカリ	0	—	0	—	0	—	0
日本晴	250	13	290	15	390	20	156
中生新千本	0	—	0	—	0	—	0
その他	39	2	27	1	0	—	0
合計	1,989	100	1,984	100	1,984	100	100
良食味品種	656	33	1,143	58	1,594	80	243
その他品種	1,333	67	841	42	390	20	29

注) 比率はラウンドしているため、合計とは一致しない場合がある。

14. 豊岡農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	820	20	953	24	1,100	28	134
晴るる	174	4	330	8	395	10	227
ひとめぼれ	383	9	801	20	1,140	28	298
ヒノヒカリ	292	7	518	13	860	22	295
ヤマホウシ	1,104	27	731	19	0	—	0
ヤマヒカリ	649	16	64	2	0	—	0
日本晴	421	10	382	10	0	—	0
中生新千本	0	—	0	—	0	—	0
その他	249	6	139	4	425	11	171
合計	4,092	100	3,918	100	3,920	100	96
良食味品種	1,669	41	2,602	66	3,495	89	209
その他品種	2,423	59	1,316	34	425	11	18

注) 比率はラウンドしているため、合計とは一致しない場合がある。

15. 長門大津農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	587	34	600	35	650	38	111
晴るる	96	6	170	10	300	18	313
ひとめぼれ	47	3	70	4	150	9	319
ヒノヒカリ	11	1	20	1	40	2	364
ヤマホウシ	618	36	530	31	350	21	57
ヤマヒカリ	37	2	25	1	0	—	0
日本晴	289	17	260	15	200	12	69
中生新千本	0	—	0	—	0	—	—
その他	52	3	25	1	10	1	19
合計	1,737	100	1,700	100	1,700	100	98
良食味品種	741	43	860	51	1,140	67	154
その他品種	996	57	840	49	560	33	56

注) 比率はラウンドしているため、合計とは一致しない場合がある。

16. 萩市農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	124	35	139	40	145	41	117
晴るる	0	—	0	—	0	—	—
ひとめぼれ	12	3	25	7	45	13	375
ヒノヒカリ	12	3	62	18	104	30	867
ヤマホウシ	62	18	60	17	25	7	40
ヤマヒカリ	55	16	16	5	3	1	5
日本晴	52	15	32	9	15	4	29
中生新千本	0	—	0	—	0	—	—
その他	33	9	16	5	13	4	39
合計	350	100	350	100	350	100	100
良食味品種	148	42	226	65	294	84	199
その他品種	202	58	124	35	56	16	28

注) 比率はラウンドしているため、合計とは一致しない場合がある。

17. 山口阿武農協

(単位：ha、%)

	平成10年産		平成11年産		平成12年産 (目標面積)		H10対比 H12/H10
	誘導面積	比率	誘導面積	比率	誘導面積	比率	
コシヒカリ	1,507	73	1,541	74	1,546	74	103
晴るる	116	6	253	12	268	13	231
ひとめぼれ	0	—	0	—	0	—	—
ヒノヒカリ	9	0	27	1	91	4	1,011
ヤマホウシ	195	9	92	4	48	2	25
ヤマヒカリ	189	9	96	5	100	5	53
日本晴	0	—	0	—	0	—	—
中生新千本	0	—	0	—	0	—	—
その他	54	3	61	3	26	1	48
合計	2,070	100	2,070	100	2,070	100	100
良食味品種	1,632	79	1,821	88	1,905	92	117
その他品種	438	21	249	12	174	8	40

注) 比率はラウンドしているので、合計とは一致しない場合がある。

4 販売の状況

1 政府米の役割と課題

- (1) 政府米は「備蓄」として位置づけられ、150～200万トンに適正水準としているが、自主流通米との価格逆転等により大幅な在庫を抱えている。
- (2) 本県では、コシヒカリを除くほとんどの品種が販売不振銘柄となっており、6年産から9年産までの買入数量15万トンの内の約10万トンが在庫となっている。
- (3) 政府米買入数量は、適正在庫を維持するために、販売実績に応じて数量が決定されている。(買入数量の減少)
 また、銘柄ごとの買入数量は、自主流通米の計画出荷量の50%以内に制限(販売不振銘柄の買入制限)

2 自主流通米の現状と課題

- (1) 自主流通米制度は、「市場原理の導入」と「良質米の供給拡大」を図るため、昭和44年に発足。平成7年11月施行の「食糧法」により民間流通に移行
- (2) 本県の自主流通米のシェアは60%台で推移してきたが、全国平均に比較して15%程度低い。

表17 自主流通米比率の推移 (単位：%)

年産	60年産	2年産	3年産	4年産	6年産	7年産	8年産	9年産	10年産
山口県	30	55	69	63	54	59	64	64	89
全国	43	74	79	74	71	82	84	78	94

5年産は、不作により自主流通米に振り分けられた。

- (3) 政府米買入ルール(備蓄運営ルール)の変更により、より売れる米づくりが求められる。
 ※11年産の政府買入数量は11米穀年度の政府米販売数量から25万トン差し引いた数量とする。(10年産も同様)
- (4) コシヒカリをはじめとする全国流通ブランド(売れる品種への転換)の作付けが伸びるなかで、本県の取組みは遅れ、早急な品種転換が求められている。

表18 全国の品種別作付比率の推移 (単位：%)

品 種 名	コシヒカリ	あきたこまち	ひとめぼれ	ヒノヒカリ	きらら397	ササニシキ	キヌヒカリ	日本晴	
作付比率	平成7年	28.8	6.6	7.1	5.4	4.2	3.8	2.7	4.4
	平成8年	30.6	7.4	7.1	6.4	5.3	3.6	3.0	3.5
	平成9年	31.5	7.9	7.3	7.2	5.3	3.5	3.1	2.9
	平成10年	33.6	8.4	8.5	8.1	5.4	2.4	3.4	2.2

表18-1 山口県の品種別作付比率の推移

(単位：%)

品 種 名	コシヒカリ	ひとめぼれ	ヤマホウシ	ヤマヒカリ	日本晴	せとむすめ	ヒノヒカリ	中生新千本
作付比率	平成7年	16.4		24.6	24.1	14.1	7.8	2.9
	平成8年	17.3		26.8	20.2	15.1	3.8	2.7
	平成9年	21.5	1.1	28.1	16.4	15.0	2.0	4.3
	平成10年	23.3	1.9	27.3	9.2	15.5	0.4	9.8

- (5) 県内産米の主食用流通量は、計画外米の増大や県外産米の流入等によりシェアが低下してきている。

表19 県産米の出荷状況

(単位：トン、%)

年 度	生産量	自主流通米	政府米	もち米	計画外出荷米	同比率
7年度	169,300	62,297	40,415	731	65,857	38.9
8年度	153,500	60,588	31,628	371	60,913	39.7
9年度	144,200	55,193	27,872	240	61,135	42.4
10年度	131,400	64,277	8,153	564	58,406	44.4

表20 主食用うるち米の販売実績

(単位：トン、%)

		県 内	福岡県	広島県	その他県	県外計	合 計	県内比率
7RY 実績	6年産	31,338	9,773	1,670	2,995	14,838	45,776	
	7年産	2,435	374		260	634	3,069	
	計	33,773	10,147	1,670	3,255	15,072	48,845	69.1
8RY 実績	6年産	2,186					2,186	
	7年産	30,068	11,732	2,525	2,247	16,504	46,572	
	8年産	2,165	269		67	336	2,501	
	計	34,419	12,001	2,525	2,314	16,840	51,259	67.1
9RY 実績	7年産	2,434	163	566	48	777	3,211	
	8年産	24,583	4,291	1,162	1,958	7,411	31,994	
	9年産	3,885	366	144	72	582	4,467	
	計	30,902	4,820	1,872	2,078	8,770	39,672	77.9
10RY 実績	8年産	3,200	600	1,200	4,500	6,300	9,500	
	9年産	25,800	8,600	2,000	2,300	12,900	38,700	
	10年産	2,000	400	200	300	900	2,900	
	計	31,000	9,600	3,400	7,100	20,100	51,100	60.1

- (6) 酒用の販売は一定の枠（県内：1,800トン程度、県外6,000トン程度）の中で販売されているが、県内販売は、清酒の販売不振による県内酒場の減石、廃業等により減少傾向にある。また、県外販売は商社代行により白鶴酒造を中心に希望品種中生新千本を主体に販売している。

今後は、需要量に沿った安定生産と低蛋白質、低コストをめざした生産が必要である。

表21 酒用うるち米販売実績（単位：トン）

	県内	県外	合計
7年産	1,971	5,281	7,252
8年産	1,800	6,395	8,195
9年産	1,315	5,953	7,268
10年産	1,155	7,315	8,470

(7) もち米は、平成6年産の供給過剰により、大量の持ち越し在庫となったが、その後の作付け抑制により、10R Y末で需給均衡となる見込みである。

需要量が全国で20万トン程度と少ないうえ、輸入原料との競合もあり、契約栽培を基本とする計画生産が必要である。

表22 もち米販売実績（単位：トン）

	県内	県外	合計
7年産	587	54	641
8年産	371		371
9年産	240		240
10年産	564		564

3 山口米の販売と評価

(1) 自主流通価格形成センターにおける入札取引価格は、年々下落している。とりわけ、本県産の自主流通米の価格（大阪上場入札取引価格）は、8年産以降全国平均を下回っており、9年産Bランク米は政府買入価格を下回る状況となっている。

表23 自主流通米価格の推移

	7年産		8年産		9年産		10年産
	基準価格	指標価格	基準価格	指標価格	基準価格	指標価格	指標価格
全国平均	21,535	20,204	20,780	19,806	19,468	18,366	17,645
山口コシヒカリ	21,900	20,783	20,950	19,484	19,500	17,822	17,334
山口ヤマホウシ	19,700	18,733	18,800	17,484	17,650	16,146	15,808
山口日本晴	18,900	17,871	17,900	17,329	17,450	15,992	15,301
政府米1類買入価格		16,666		16,666		16,492	15,950

注) 指標価格は最終入札価格。コシヒカリ、日本晴は9年産から上場

(2) 大幅な過剰基調の中で米の在庫数量は適正水準を大幅に上回る状況となり、8年産の自主流通米は全国で78万トン（本県で15,326トン）が持ち越し在庫となった。

表24 主食用自主流通米の持越数量

(単位：トン、%)

	全 国				山 口 県			
	7年産	8年産	9年産	10年産	7年産	8年産	9年産	10年産
集荷数量	371万	380万	378万	357万	52,847	49,792	47,507	54,878
持越数量	24万	78万	46万	18万	3,207	15,326	3,286	2,400
持越比率	6.5	20.5	13.2	5.0	6.1	30.8	6.9	4.4

注) 持越数量には備蓄調整保管を含む

- (3) 11R Yにおける政府米は、自主流通米との協調販売や景気低迷による低価格米指向により全国的には順調な販売となったが、山口米については、コシヒカリを除くほとんどの品種で9割以上の在庫水準で販売不振銘柄となっている。

表25 政府米の買入数量及び売却数量(平成11年6月末現在)(単位：千トン、トン)

	全 国				山 口 県			
	7年産	8年産	9年産	10年産	7年産	8年産	9年産	10年産
買入数量	1617.4	1131.0	1139.6	300.0	40,415	31,628	27,872	8,153
売却数量	784.8	299.3	338.4		10,215	3,928	3,072	
売却残	832.6	831.7	801.2		30,200	27,700	24,800	

- (4) 品質(水分、整粒歩合、食味等)のバラツキが大きく、「硬くてまずい」、「価格と品質がミスマッチ」等の理由により、相対的に評価が低下している。

特に、・上位等級比率が低い

- ・整粒歩合が他産地に比較して低い(実需者からは精米歩留まりが低い)
- ・玄米水分が低い(過乾燥)
- ・食味値が低く、バラツキが大きい

5 生産費

1 生産コスト

- (1) 費用に占める割合の大きい、**労働費**（全国比38%高）、**農機具費**（同10%高）が高いため10a当たり生産費は、全国平均より23%高い。
- (2) 物財費のうち、**薬剤費**（全国比41%高）、**肥料費**（同25%高）が、全国に比べ特に高い。
- (3) 60kg当たり生産費についても、**労働費**（全国比42%高）、**農機具費**（同12%高）が高いため、全国平均より26%高い。
- (4) **適正防除・適正施肥の徹底**により、**薬剤費**と**肥料費**の低減を行う必要がある。
- (5) **受託組織や共乾施設による生産のシステム化を進めるとともに、直播等省力化技術の普及定着により、農機具費、労働費の低減を図る必要がある。**

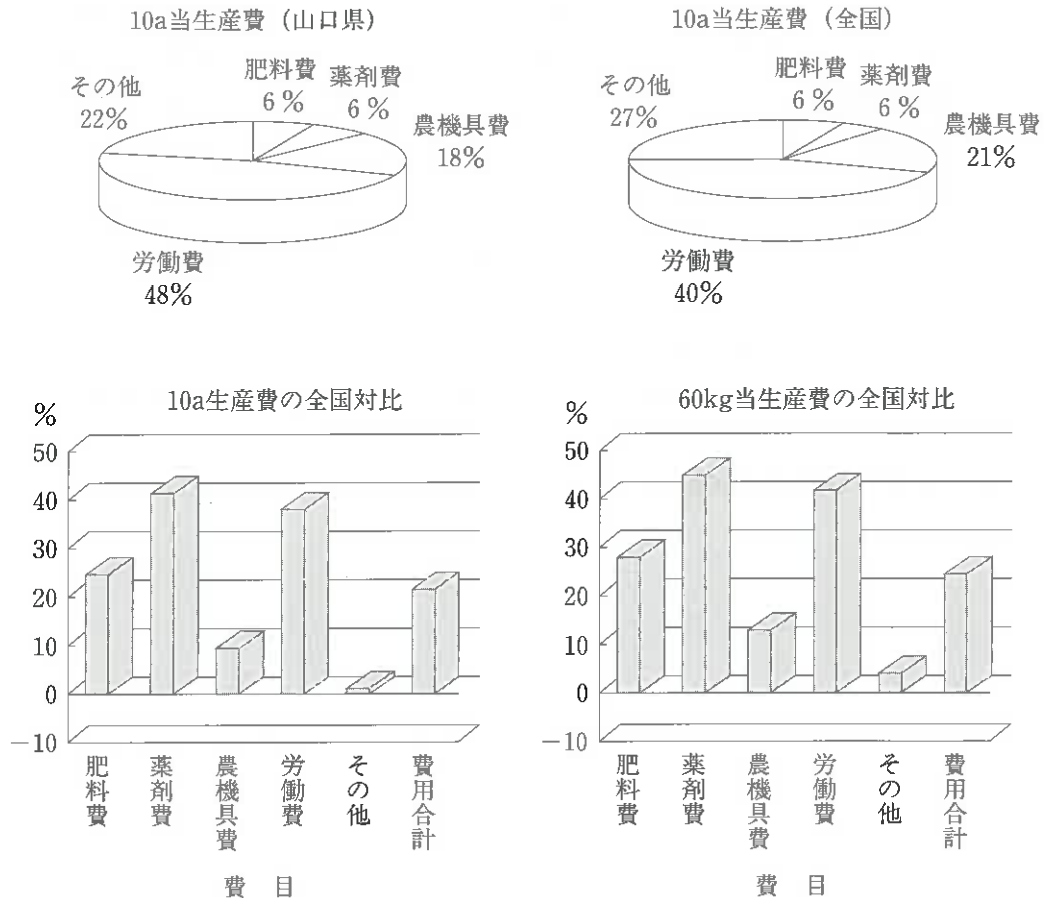


図12 生産コストの全国平均との比較（平成9年産）

表26 米生産費（平成9年産、10a当）の比較 (単位：円)

	物財費	肥料費	農業薬剤費	農機具費	その他物財費	労働費	費用合計	生産費
山口県	87,931	10,320	10,594	30,549	36,468	77,312	165,243	163,387
全 国	79,729	8,281	7,496	27,868	36,084	55,832	135,561	132,609
県/国	110	125	141	110	101	138	122	123

表26-1 米生産費（平成9年産、60kg当）の比較 (単位：円)

	物財費	肥料費	農業薬剤費	農機具費	その他物財費	労働費	費用合計	生産費
山口県	10,367	1,217	1,249	3,603	4,298	9,118	19,485	19,267
全 国	9,193	954	864	3,214	4,161	6,440	15,633	15,293
県/国	83	128	145	112	103	142	125	126

2 コスト低減の目標

①全国レベルを目標とした米生産費の低減

- ◎適正防除・適正施肥の実施による薬剤費、肥料費の低減
- ◎受託組織による機械の効率利用、共乾施設の利用促進による農機具費の低減

6 種子生産

1 種子更新率

- (1) 全国の種子更新率は、平成元年度に59.0%であったが、平成6年度以降10ポイント程度更新率を高め、ほぼ70%水準となっている。

表27 全国の水稻種子更新率の推移（平成元年度～9年度）（単位：%）

	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9
全国	59.0	59.7	62.3	64.4	65.1	70.3	69.0	71.4	69.3

稲作関係資料より抜粋

- (2) 中国地方の種子更新率は、平成7～9年度の3ヶ年でみると、全国平均より7～8%低く、62～63%で推移している。また、良質米地帯である北陸、東北地方では、種子更新率が75～89%と高い状況である。

表28 全国のブロック別種子更新率（平成7年度～9年度）（単位：%）

年度	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	全国
平成7年度	81.5	76.7	58.3	87.2	58.7	61.2	61.9	61.7	58.8	69.0
平成8年度	82.5	83.1	58.4	89.4	56.5	61.4	63.3	65.1	61.2	71.4
平成9年度	75.5	78.6	59.2	86.3	57.6	59.7	62.6	67.0	59.6	69.3

全国米麦改良協会資料より抜粋

- (3) 山口県の種子更新率は、中国5県中で最も低く、全国平均より約20ポイント、中国平均より約10ポイント低い50%水準である。中国地方の中で良質米地帯である島根県は、平成8～9年度は、90%と非常に高い状況である。

表29 中国5県の種子更新率（平成7年度～9年度）（単位：%）

年度	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	中国
平成7年度	65.6	74.8	51.0	72.7	52.7	61.9
平成8年度	72.1	90.0	56.6	55.0	53.7	63.3
平成9年度	65.9	90.0	58.1	55.2	55.1	62.6

稲作関係資料より抜粋

- (4) 山口県の種子更新率

山口県の種子更新率は、平成3年度は50.2%であり、平成10年度は62.6%と、横這いからやや増加の傾向である。

表30 山口県の水稻種子更新率の推移（平成3年度～10年度）（単位：%）

	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10
山口県	50.2	51.2	47.9	52.5	52.7	53.7	55.1	62.6

米麦改良協会総会資料より抜粋（H10＝H9産種子配付実績（665,620kg）の換算面積/H10水稻作付面積（26,600ha）×100により算出）

2 種子生産

- (1) 県内には、4つの種子場があり、採種ほ面積は、1種子場当たり30～40ha規模である。
- (2) 契約量は、県合計で600t前後となっている。

表31 採種ほ計画面積及び契約量の推移（平成7年度～10年度）（単位：ha、t）

採種ほ名		H7	H8	H9	H10
鹿野町	採種ほ面積	23.53	31.64	30.90	40.00
	契約量	103.2	138.3	136.0	156.0
徳地町	採種ほ面積	43.85	45.45	37.26	30.0
	契約量	193.0	200.0	164.0	120.0
宇部市小野	採種ほ面積	36.45	37.72	32.25	34.9
	契約量	161.0	166.0	142.0	152.0
萩市大井	採種ほ面積	35.82	33.40	32.20	29.3
	契約量	167.5	147.0	139.0	138.5
県計	採種ほ面積	139.65	148.2	132.61	134.2
	契約量	624.7	651.3	581.0	566.5

米麦改良協会総会資料より抜粋

- (3) 採種農家戸数は、昭和55年度と平成10年度を比較すると、徳地町では、ほとんど人数に変動がないのに対して、鹿野町では増加し、宇部市小野と萩市大井では、やや減少している。
- (4) 高齢化等により脱退者が増加する中で、新規参入者の確保が十分でない。
- (5) 1農家1品種作付の傾向が認められる。

表32 採種農家戸数の推移

(単位：人)

採種ほ名	S55	H6	H7	H8	H9	H10	H9～H10の 参入、脱退状況
鹿野町	28(47)	42(42)	32(32)	46(46)	46(46)	47(48)	+4 -3
徳地町	56(56)	64(64)	62(62)	61(61)	59(59)	53(53)	0 -6
宇部市小野	42(71)	29(40)	30(40)	33(42)	32(32)	31(33)	+5 -6
萩市大井	42(62)	37(39)	35(35)	35(35)	35(35)	36(36)	+1 0
県計	168(236)	172(185)	159(169)	175(184)	172(172)	167(170)	+10 -15

()内の数値は延べ農家戸数、()外の数値は実農家戸数

3 種子生産の方向性

(1) 基本方針

産地間競争の激化や消費者ニーズの高度化に対応し、競争力のある山口米づくりを推進するため、その基礎となる優良種子の安定生産を図ることとし、自主流通米の100%種子更新を目標に、県内種子場での生産を基本とする。

(2) 対策

ア 優良種子生産対策

① 合格率向上対策

栽培指針の遵守による適正なほ場管理、厳正な審査の実施等により合格率の向上及び品質の均一化を図る。

② 機械・施設の利用率向上対策

種子場の団地化、採種農家の組織化を図ることにより、共同機械・施設の効率的な利用体制を確立し、品質の向上と低コスト化を図る。

③ 種子場の維持・拡大対策

新規栽培者の発掘や農地集積による規模拡大を進め、種子場の作付面積の拡大を推進する。

④ 効率的な採種計画の策定と実践

農協別品種誘導計画に沿った採種計画を策定する。

⑤ 指導体制の強化

関係機関の濃密な連携のもと、農協及び農林事務所の指導体制の強化を図る。

イ 種子更新率の向上対策

① 種子更新の必要性の啓蒙推進

米の品質、収量面での意義をPRし、種子更新を山口米の販売戦略の一つとして位置づける。

② 消毒済み種子の利用推進

省力化・低コスト化及び環境問題等の観点から、利用推進を図る。

(3) 種子生産の目標

①種子更新率 76%以上 (平成12年度目標)

◎自主流通米の種子更新率 100%

②種子合格率 100%

◎生産の団地化・組織化

◎種子生産技術の徹底

1 生産・出荷の状況

1 作付面積

- (1) 水田のかい廃や生産調整面積の拡大等により作付面積は減少し、平成10年には作付面積が26,600haとなり、昭和45年の51%まで減少している。
- (2) 全国の減少率37%（S45-H10/S45）に比べ減少率が大きく（山口県：49%）、耕作放棄等による自然かい廃を防止し、作付面積を維持する必要がある。

図1 作付面積の推移

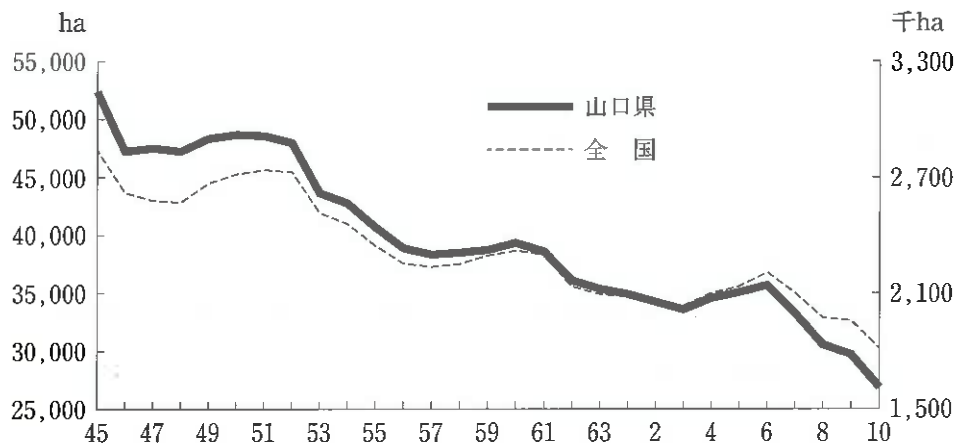


表1 作付面積の推移 (単位：ha、千ha)

	S45	S55	H2	H5	H6	H7	H8	H9	H10
山口県	52,400	40,700	34,200	34,900	35,500	33,200	30,400	29,600	26,600
全国計	2,836	2,350	2,055	2,127	2,200	2,106	1,967	1,944	1,793

2 単収

- (1) 平成5年の不作には382kg/10aであったが、平成6年に初めて500kgを超え、その後、487kg~510kgの収量水準で推移している。
- (2) 良食味、高品質、安定生産を実現できる収量水準を設定し、その水準を安定的に維持する必要がある。

表2 10a当り収量の推移 (単位：kg/10a)

	S45	S55	H2	H5	H6	H7	H8	H9	H10
山口県	416	380	474	382	540	510	505	487	494
全国計	442	412	509	367	544	509	525	515	499

3 平年単収

平年単収は、昭和58年から平成8年までは475kgであったが、平成9年に477kg、平成10年には481kgと向上している。

全国平均の507kg（H10）より26kg低い水準である。

表3 10a当り平年単収の推移

（単位：kg/10a）

	S45	S55	H2	H5	H6	H7	H8	H9	H10
山口県	416	465	475	475	475	475	475	477	481
全国計	431	471	494	499	499	499	502	504	507

4 作況

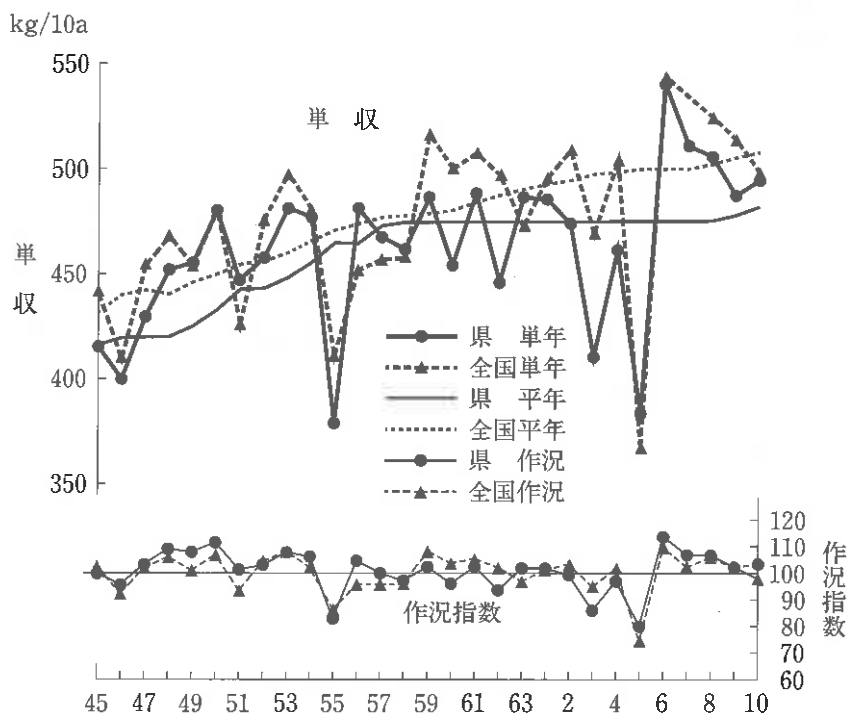
(1) 平成5年には、作況指数80の「不良」であったが、その後、5年連続で豊作となるなど、気象変動に大きく左右されている。

(2) 気象変動に対応できる高品質・安定生産技術の普及定着が必要である。

表4 作況指数の推移

	S45	S55	H2	H5	H6	H7	H8	H9	H10
山口県	100	82	100	80	114	107	106	102	103
全国計	103	87	103	74	109	102	105	102	98

図2 単収と作況指数の推移



5 生産量

- (1) 平成10年産米の生産量は、131,400トンであった。
- (2) 作付面積の減少に伴い、生産量及び全国シェアも減少している。

図3 生産量の推移

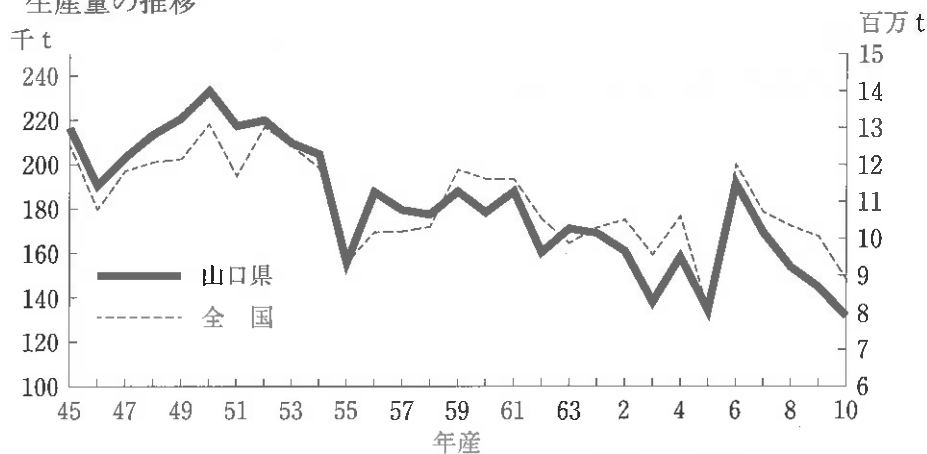


表5 生産量の推移

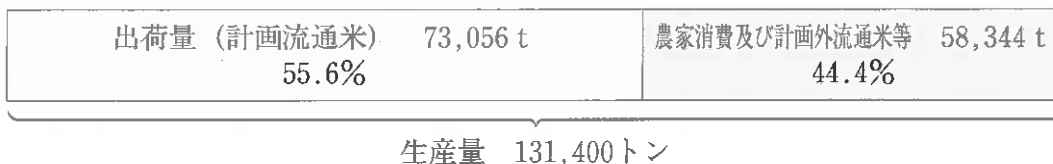
(単位：万トン、百万トン、%)

	S45	S55	H2	H5	H6	H7	H8	H9	H10
山口県	21.8	15.47	16.21	13.33	19.17	16.93	15.35	14.42	13.14
全国計	12,528	9,692	10,463	7,811	11,961	10,724	10,328	10,004	8,939
山口県/全国	1.7	1.6	1.5	1.7	1.6	1.6	1.5	1.4	1.3

6 出荷量及び出荷率

- (1) 平成10年産米の生産量は、131,400トンで、73,056トン(56%)が計画流通米として出荷され、58,344トン(44%)が農家消費及び計画外流通米等である。

図4 生産量の内訳(山口県の場合)



- (2) 出荷率は、全国に比べ高いが、食糧法施行後は計画外流通米の増加等により低下の傾向にある。
- (3) 計画的かつ安定的な流通を確保し、価格の安定を図るためにも、計画出荷数量の確保が必要である。

表6 出荷率の推移

(単位：%)

	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10
山口県	66.8	63.2	61.5	58.8	61.5	61.1	60.4	58.0	55.6
全国計	63.3	60.7	59.9	50.8	60.4	54.0	55.8	55.0	51.2

7 粗生産額

- (1) 農業粗生産額に占める米の割合は、平成9年で41.6%で、作付面積の減少と米価の低下等により、平成7年産以降シェアを下げているものの、依然として、**米中心の農業構造**となっている。
- (2) **品種、食味、品質面での市場評価を高め、売れる米づくりと複合型農業の推進により農業所得の向上を図る必要がある。**

図5 農業粗生産額に占める米生産額の割合（平成9年度）

米生産額 39,044百万円 41.6%	その他の作目の粗生産額 54,739百万円 58.4%
農業粗生産額 93,783百万円	

表7 山口県における農業粗生産額及び米粗生産額の推移（単位：百万円、%）

	S45	S55	H2	H5	H6	H7	H8	H9
農業粗生産額	66,484	111,156	112,370	101,895	116,415	106,625	102,300	93,783
米粗生産額	29,875	46,280	47,309	45,068	58,078	49,698	44,050	39,044
米シェア	44.9	41.6	42.1	44.2	49.9	46.6	43.1	41.6

8 生産・出荷の目標

- ① 水稻作付面積の確保 27,000～30,000ha
- ② 品質・食味向上のための安定した収量水準（500～540kg/10a）の確保
- ③ 計画出荷数量の確保

2 品質・食味

1 等級

(1) 上位等級比率

ア 近年、上位等級比率については、改善傾向にある。

イ 平成8年以降、上位等級比率は80%前後で推移しており、全国平均との差が縮小されつつあるが、依然として改善の傾向が見られない地域がある。

図6 上位等級比率の推移

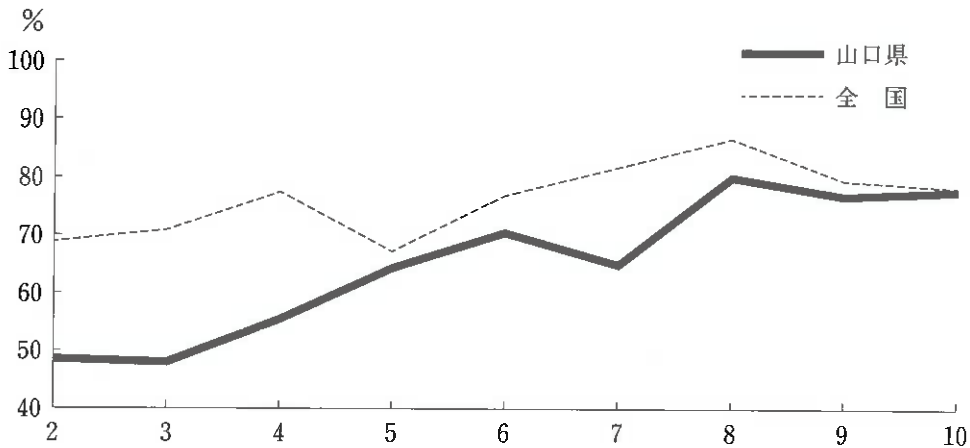


表8 上位等級比率の推移

(単位：%)

	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10
山口県	48.5	47.4	54.7	63.9	70.2	64.8	80.0	76.8	77.5
全国	68.7	70.6	77.6	67.0	77.0	81.8	86.8	79.6	78.1

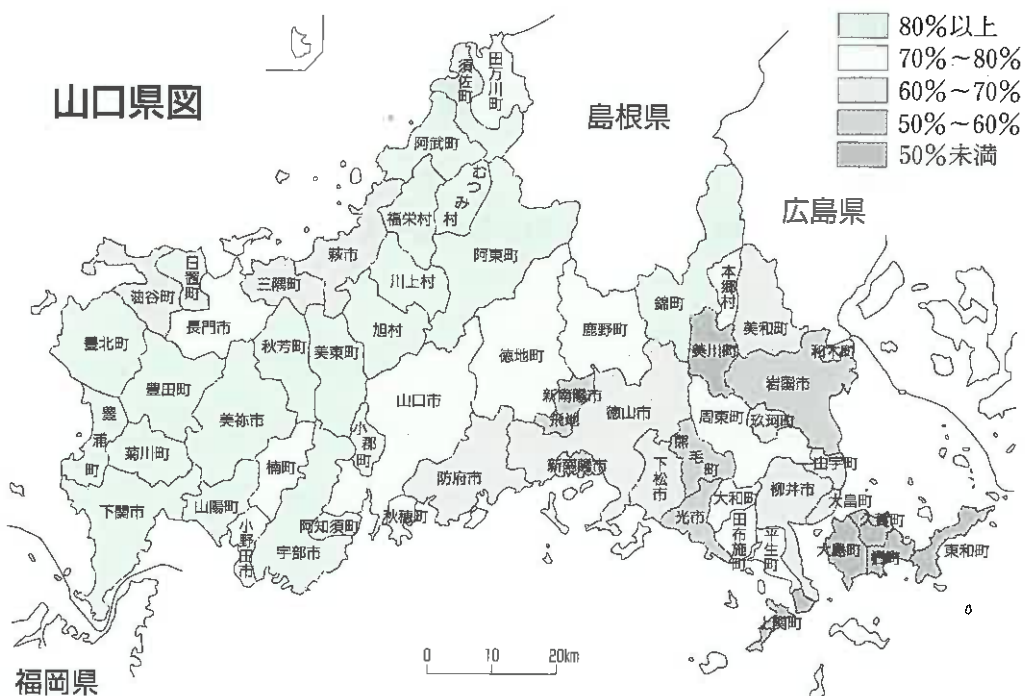


図7 県内の上位等級(1等米)比率の分布図(市町村別、平成8~10年産の3ヶ年の平均)

ウ 共乾率の低い地域は、等級比率が低い傾向にある。

エ 上位等級比率を高めるため、共乾施設のカバー率を高めるとともに、共乾施設の利用を高める必要がある。



図8 広域農協単位での共乾率の分布図（広域農協構想別、平成10年産）

表9 農協別共乾率（平成10年産）

（単位：％）

JA名	山口東	玖北	南すおう	周南	防府とくち	山口中央	仁保	小郡町
共乾率	50	41	35	20	39	60	67	83
利用率	53	56	37	54	43	52	58	74

JA名	阿東町	山口宇部	山口美祢	豊関	長門大津	萩市	山口阿武	県計
共乾率	43	42	64	37	72	110	91	46
利用率	52	64	49	72	87	77	55	55

注) 農協別共乾率は受益エリア内での共乾率を示す。

(2) 等級格下げ要因

ア 等級の格下げの主要因は、籾数過多による心白粒・乳白粒・腹白粒の発生、刈り遅れによる胴割米の発生及びカメムシによる被害粒の発生である。

イ 適正籾数の確保、適正な防除、適期収穫、適切な乾燥調製の徹底が特に必要である。

表10 主な格下げ要因

(単位：%)

	心白粒	腹白粒	胴割米	充実度	容積重	未熟粒	青未熟	カメムシ	肌ずれ
H7	16	13	24	11	7	6	6		
H8	17.5	7.8	15.6	11.7	9.6		5.2	9.8	
H9	25.1	15.8	12.5	7.7	7.0	3.2	4.3	6.2	4.3
H10	17.6	6.1	18.3	7.0	6.3			22.4	2.6

注) 心白粒には乳白粒を含む

ウ 平成10年産においては、コシヒカリ、晴るる、ひとめぼれの早生品種は乳白粒・心白粒の発生により、ヒノヒカリはカメムシ被害により等級格下げとなった。

表11 品種別格下げ要因 (平成10年産)

(単位：%)

	心白粒	腹白粒	胴割米	充実度	容積重	未熟粒	青未熟	カメムシ	肌ずれ
コシヒカリ	52.7		8.4					17.9	
晴るる	25.9		24.3					21.0	
ひとめぼれ	39.8		7.8					29.8	
ヒノヒカリ			9.3	20.0				24.5	

注) 心白粒には乳白粒を含む

(3) 改善目標

① 1等米比率 100% (平成12年度目標)

◎適期・適量施肥、適期収穫を徹底

② 共乾施設カバー率 49% (平成13年度目標)

2 水分

- (1) 適正水分比率は高まり、改善されてきているものの、依然として適正水分比率は全国平均より低い水準にあり、早急に、適正水分比率を高める必要がある。

図9 適正水分比率の推移

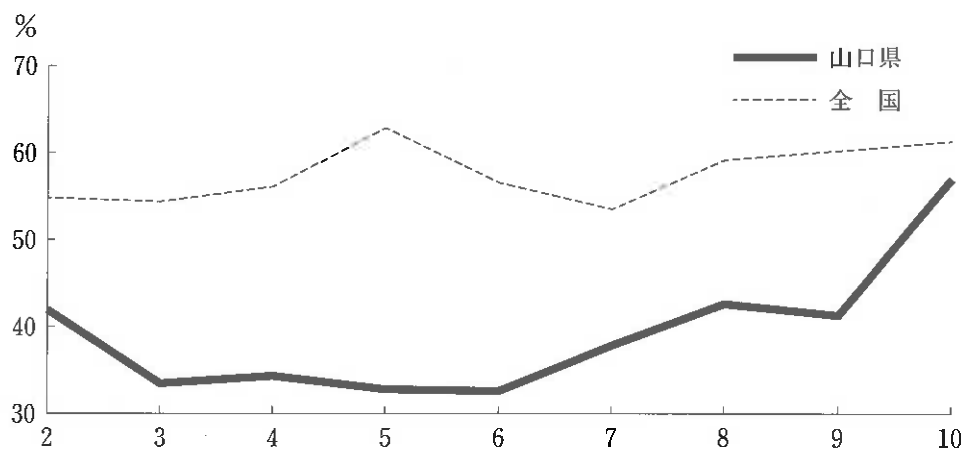


表12 適正水分比率の推移 (単位：%)

	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10
山口県	41.7	33.5	34.1	32.8	32.5	38.0	42.6	41.3	57.1
全国	54.6	54.1	55.8	62.7	56.2	53.2	59.2	60.0	61.3

注) 適正水分：含水率14.6～15.0%を示す。

- (2) 県東部を中心に過乾燥気味の調製が行われている。

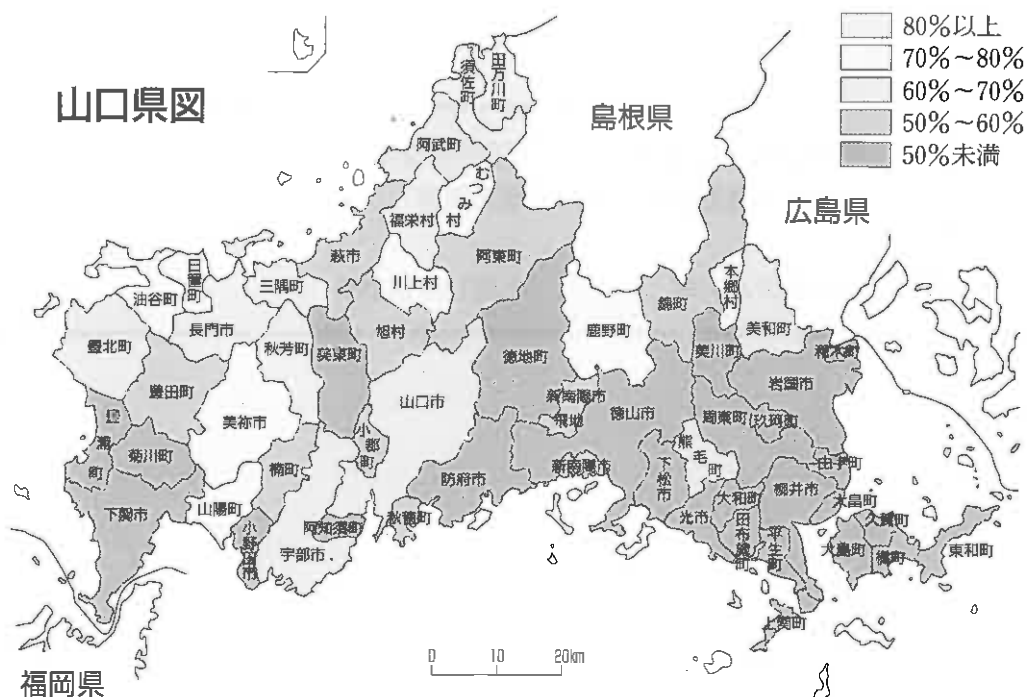


図10 県内の適正水分比率の分布図 (農協別、平成10年産)

3 整粒歩合

- (1) 自主流通米としての最低目標である整粒歩合80%をクリアしないものが多い。
(9、10年産米における整粒歩合80%以上は57~58%。)
- (2) 整粒歩合を高めるため、**適正な調製（ライスグレーダーの網目：1.85mm以上）を徹底する。**

表13 適正整粒歩合（単位：％）

	H9	H10
山口県	57.8	57.2

注) 適正整粒歩合：整粒80%以上を示す。

4 品質向上の目標

①適正整粒歩合（80%以上）100%（平成12年度目標） ◎適正な調製（ライスグレーダーの網目：1.85mm以上）の徹底
②適正水分比率 100%（平成12年度目標） ◎過乾燥の防止、適正な乾燥調製の徹底 ◎共乾施設カバー率、共乾施設利用率の向上
③農業倉庫の低温化率8.4%（平成11年度目標） ◎商品としての米管理体制の強化

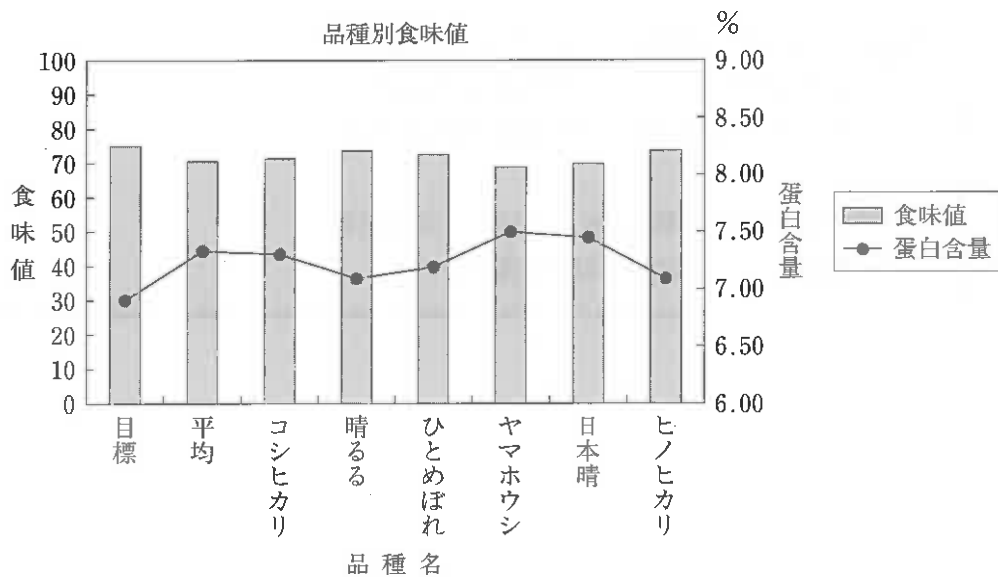
5 食味

- (1) 10年産の県平均の食味値は70点（サタケ食味計）、タンパク含量は7.3%であり、早急に75点以上、6.9%以下に改善する必要がある。
- (2) 品種的には、ヒノヒカリ、コシヒカリが高く、ヤマホウシ、日本晴が低い。
- (3) 食味を向上させるためには、農家の意識改革、品種の転換、栽培体系の見直しが必要である。

表14 食味計の整備計画

年度	JA名
平成8年	J A 山口美祢
平成9年	J A 阿東町、J A 豊関、J A 山口阿武、J A 長門大津、J A 仁保
平成10年	J A 防府とくち、J A 山口宇部、J A 山口中央
平成11年	J A 南すおう、J A 周南
平成12年	J A 山口東 計 12JA

図11 品種別の食味値の違い（平成10年産）



6 食味向上の目標

- ①食味値75点以上（平成12年度目標）
- ◎タンパク含量 6.9%以下
 - ◎食味計の計画的整備
 - ◎食味値による品位別区分販売の検討
 - ◎県栽培指針に沿った地区栽培ごよみの見直し